



高大接続改革

校長 海發 真一

6月2日（土）に開催した体育祭では、実行委員の生徒を中心とした企画・準備、学年練習、全体予行をしっかりと行い、生徒全員が競技や運営に全力投球して楽しく充実した一日とすることができました。保護者や地域をはじめとする多くの観客の皆様にとくさんの感動をもたらしたことは、大変喜ばしいことです。「労なくして得るものなし」を意味する‘No pain, no gain. 一力尽きるまで’のスローガンを体現し、仲間とともに一生懸命な気持ちで体育祭を大成功させた田高生に、あらためて敬意を表したいと思います。

みなさんは、将来、心豊かで充実した生活を送るとともに、社会の形成者として経済活動をはじめとする種々の場面で活躍することができる力を、田高での学習や学校行事、部活動等を通して高めています。体育祭や日常の学校生活における意欲的な取組を見るたびに、みなさんの将来の様子が楽しみになりますが、そこで必要とされる力について考えてみたいと思います。

現在、文部科学省は、変化の激しい時代において新たな価値を創造していく力を育成するため、高大接続改革を進めています。その背景やこれからの社会で求められる力が「高大接続システム改革会議『最終報告』」に記されています。

まず、これからの時代に我が国で学ぶ子供たちは、明治以来の近代教育が支えてきた社会とは質的に異なる社会で生活や仕事をしていくことになり、国際的にはグローバル化・多極化の進展、新興国・地域の勃興、産業構造や就業構造の転換、国内では生産年齢人口（15歳以上65歳未満の年齢に該当する年齢層人口）の急減、労働生産性の低迷、地方創生への対応等の変化が挙げられています。また、このような大きな社会変動の中では、多様な人々と協力しながら主体性を持って人生を切り開いていく力や、知識の量だけではなく、混んとした状況の中で問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造していくための資質や能力が重要になると指摘されています。

そして、このような資質や能力は、先進諸国に追いつくという目標の下で、知識・技能を受動的に習得する能力が重視されたこれまでの時代の教育では十分に育成することができなく、これからの時代に向けた教育改革を進めるに当たっては、身に付けるべき力として、(1) 十分な知識・技能、(2) それらを基盤として答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力、(3) これらの基になる、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（これらを「学力の3要素」と言います）を特に重視する必要があると記されています。

この力の育成は、高校教育、大学教育を通して行われるため、双方を接続する大学入学者選抜は「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する内容に転換していき、現1年生からは大学入試センター試験に代わり、大学入学共通テストがスタートします。新テストでは、思考力・判断力・表現力を一層重視するため、国語と数学では記述式問題が導入され、英語では4技能（読む・聞く・話す・書く）を適切に評価するため、民間等が実施する資格・検定試験を活用することが決まっています。



田高でも、高校教育改革（「学力の3要素」の育成）、大学入学者選抜改革（「学力の3要素」の多面的・総合的評価）に対応するため、主体的・能動的な学習を促すアクティブ・ラーニング型授業の導入、eポートフォリオの作成等に取り組んでいます。

科学（化学）の面白さ

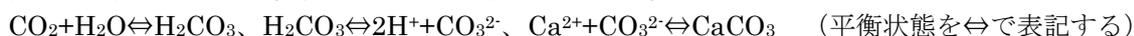
副校長 牛込 俊裕

前回は合唱祭を受けて、ハーモニー、自然との調和について述べました。今回は東工大や首都大のセミナーに多数の希望者がいたことから、科学（化学）の面白さについて述べます。

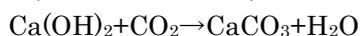
私が教師になった頃、マヨネーズ真珠というのがテレビで放映されていました。バラエティ番組ですが、フルブライト留学した研究者が身近な物から真珠を作れることを取り上げていました。地上波、キー局のゴールデンタイムで数回放映されていました。ここでその方法を紹介すると次の通りです。

マヨネーズ、化学調味料、和風だし、消石灰を水に溶かし、エアープンプで通気します。白濁したら核（真珠にする物）を入れ、消石灰のみを日ごと追加し、4日間でマヨネーズ真珠ができます。当時、私は1度試しましたが、テレビで見た煌めきのある懸濁水はできず、やめました。ここで、この実験を考察します。

一般的に貝は海水を吸い込み、その中の栄養分を吸収して生きています。真珠はアコヤ貝によってつくりませんが、真珠をつくる時には、アコヤ貝に核を入れます。この核はアコヤ貝にとって吐き出せない異物であり、それによって内蔵などが傷められないようにするために、外套膜という器官から分泌物を出して自らを守ります。この分泌物が長い年月をかけて幾重にも包み込まれ、出来上がったのが真珠です。外套膜は貝などの軟体動物に見られる器官で、炭酸カルシウム（貝殻はカルサイトという安定な結晶状態、真珠層はアラゴナイトという不安定な結晶状態）を分泌して貝殻を作る、呼吸をする、エサを取り込むのに必要な海水の量を調整する働きをします。化学式で表すと次の通りです。



ここで、テレビでは水酸化カルシウムが反応物ですから、次の反応式です。



小学生の頃、石灰水にストローで息を吹きかけ白濁したことを思い出します。この実験の方法で有効な石灰水ができるか、また、呼気の炭酸ガス濃度は1.5%に対して大気中では400ppmですから、エアープンプでのバブリングが有効であるか計算する必要があります。次に思うことは、炭酸カルシウムを生成させるときに、不安定な結晶状態であるアラゴナイトを生成させることです。これに対して、溶液を煮沸させながら沈殿させると斜方晶系のアラゴナイトが析出することが知られていますがこの実験とは違います。次に真珠層を核（試料）へ貼り付ける方法ですが、本物の真珠では数%の有機物（コンキオリン、クレオパトラが真珠を葡萄酒の話で知られる物質です。）が炭酸カルシウムを接着剤のように働いているように、マヨネーズ等がその役割を担えるのか検討する必要があります。

このように、高校で学習した理科の知識で、身近なことを科学的に探究することができます。ただし、物質を検証（分析）するには大学での知識が必要になります。今回の例では、液体クロマトグラフィー、走査線電子顕微鏡、X線分析が必要です。極めたい場合は連絡ください。研究室訪問を計画します。

今月は6月、誕生石は真珠です。真珠をテーマに寄稿しましたが、以上の検討事項を考察して仮説を立て、実験を通して確かめたくくなりました。

進路指導部より

進路指導部 駒場 晃

昨年度の進路状況について

今春卒業した66期生の進路決定状況を報告します。

	大学	短大	専門その他	就職	未定・浪人	留学	計
男子	77	0	4	1	32	0	114
女子	70	10	13	2	20	0	115
計 (%)	147 64.2%	10 4.4%	17 7.4%	3 1.3%	52 22.7%	0 0.0%	229

4年制大学現役合格者の受験形態について

	指定校推薦	公募制推薦	AO	センター	一般	計
男子	6	2	1	57	127	193
女子	10	5	4	36	91	146
計	16	7	5	93	218	339

詳しくは、後日配布の「SUCCESS!」をご覧ください。

今春卒業した66期生が生まれた数年後から、大学入試における「2018年問題」が話題にのぼるようにな

りました。「2018年問題」とは、2009年（平成21年）から2017年（平成29年）頃までは、18歳人口がほぼ横ばいの状況なのに対し、2018年（平成30年）からは、減少の一途をたどることから、大学も淘汰されていくだろうという予測のことで、しかし、昨年度において、どこの研修会に赴いても、「2018年問題」という言葉を耳にすることはありませんでした。それは、ひと言でいえば、大学入学定員厳格化の影響です。各大学は受験者が増えているにもかかわらず、合格者を減らすことになり、淘汰どころか難易度が上がっている状況にあります。その結果、現役生にとっては非常に厳しい入試となりました。本校66期生も苦戦を強いられましたが、国公立大学合格者は、平成元年以来、過去最高となり、GMARCH合格者数も3番目に良い結果でした。厳しい中でも、非常によく頑張った66期生でした。

さあ次は、皆さんの番です。頑張れ田高生！

平成30年度体育祭を終えて

生活指導部 鈴木 誠士

体育祭当日6月2日、初夏のように日差しが眩しく仰げば青空の中、体育祭が開催されました。今年のスローガンは「No Pain No gain ～力尽きるまで～」です。

体育祭実行委員長中心に各クラス2名合計36名で構成された実行委員会生徒がいろいろな場面で素早く動いてくれたおかげで無事成功に終わりました。準備は4月下旬に選手選出から始まります。今年は、競技練習を5月8日から始め（朝練7:30～8:15、放課後練14:30～15:30）学年ごとに割り当てました。多くの生徒が練習に参加し、同時期に、学年ごとのパネル製作者を募り、中庭にテントを張り作業をしました。

前日準備・当日の係は、委員会や部活動の生徒が協力して行いました。得点掲示は、足場を組み高いところに掲げるなど工夫を凝らしました。放送は、アナウンス原稿、BGM選びに力を入れました。審判・用具・召集は、打ち合わせを綿密にして準備をしてくれました。すべての係のおかげでタイムスケジュールどおり進行できました。一か月半に及ぶ準備が終わり、前日の予行から続いた晴天の中、当日を迎えることができました。体育祭での「感動」のために、準備に力を注いだと言っても過言では無いでしょう。

準備に力を注いだ生徒たち、本番で全力を出し切って頑張った全生徒たち、「ありがとうお疲れ様」と感謝しています。そして、体育祭で頑張った思いを次の行事に繋げていってください。

体育祭を終えて

第1学年 増田 和明

生徒の感想を載せさせていただきます。思い出に残る感動の体育祭であったことが分かります。行事を通じて1年生は着実に成長しています。

「体育祭では見事準優勝することができた。体育祭を通して、クラスの話した事のなかった人とも仲良くなれた。また、放課後のケルベロスの練習や部活の得点係など、自分のやるべき事を一生懸命にやることができた。来年は僕達が体育祭をまとめて行く側なので、今回やった事をしっかり覚えておきたい。高校生初の体育祭で、準優勝できて良かった。これもみんなの努力によるものだと思う。最高のクラスに出会えた。」

「体育祭までの練習は、朝練は雨で潰れてしまうなどで未完成のまま本番を迎えた。本番はアクシデントがいくつかあった。個人的には肉離れをしてしまった。激痛の中、怖くて言い出せずにケルベロスに出た。終わって我慢できず救護に行った。連れて行ってくれた友達が戻ってから1人だけになり、痛みと孤独が辛かった。そんな時1人駆けつけてくれて、その人の出番まで隣にいてくれた。凄く心強かったし安心した。メンタル面で凄く助けられた。午後の競技には出るなど言われたけど今まで頑張ってきたダンスにはどうしても出たくて泣く泣く頼んで出た。痛みを忘れるくらい楽しかった。諦めなくてよかった。大縄は隣で応援しかできないけどできなくて悔しくてたまらなかった。この日だけで田高の先輩、先生、友達みんな優しいなって思った。心配の言葉だけではなく『ここ座りな！』と言ってくれたり、『荷物もつよ！』『ゆっくり歩こうか！』と私に合わせてくれたり、嬉しかったし、有難かった。運動が苦手な私には「体育祭」は憂鬱でしかなかったけど、今回この体育祭でそれが無くなった。楽しいし皆といられて嬉しかった。本当に受験頑張ってたよ良かったなって心の底から思った。2週間も体育とダンスをドクターストップされてしまったけど、一刻も早く復帰してみんなとまた運動がしたい。」

「体育祭は当日よりも看板作りが楽しかった。こんなに大きな絵を描けて、看板設置の作業もやらせていただいて、本当に貴重な体験だった。そして、初めは知っている人が1人しかいなかったが、活動しているうちに仲良くなれた人もいたので参加して良かった。今年は学年パネルのほうに参加したが、来年、再来年

は美術部のスローガンパネルの制作もあるので、学年パネルに参加できないかもしれない。したがって、ますます貴重な時間だった。当日についてはとても頑張ったつもりだったが、参加した競技が全て4位以下だったので来年はそうならないように、もっと熱心に練習したい。他の競技を見ている時に話してこれまで以上に仲良くなれた人もいて、行事は友達関係においてもとても大切だと気がついた。」

「体育祭をやって、初めての体育祭だったので、緊張と楽しみがあったけれどクラスの人たちと団結して全員リレーでは、1位を取ることが出来た。優勝することは出来なかったけれど、いい思い出にする事が出来た。次の大きな行事は、文化祭なのでそこでもいい思い出にできるようにしたい。」

学校の中心として

第2学年 内野 俊和

第2学年では、体育祭応援パネルの作成のメンバーが集まらず、どうなることかと思いましたが、最終的には有志が集まり、その有志が友人を呼んで、最終的には去年度よりも素晴らしいパネルが出来上がっていました。

第2学年全体の種目の「棒引き」では、女子は泥まみれになりながらもクラスの勝利のために棒に縋りつく姿を見て取れました。「綱引き」では、予行の際には一瞬で勝敗がついてしまったクラスが、何度も話し合いながら、作戦を練り本番に臨んでいました。結果は2位でしたが、作戦を練り本番に臨む姿には感動しました。クラス全員リレーでは、A組が1位、B組が2位となりました。

学年全体では、コンスタントな成績を収めたB組が学年優勝をしました。しかし、全クラスが力を尽くして競技に向かう姿には、田高の中心となる第2学年の姿を見て取ることができました。

この後のぼろにあ祭や修学旅行でも田高の中心としてふさわしい行動がとれることを期待しています。

最上級生として

第3学年 吉田 宣浩

平成30年度が始まって、はや2ヶ月。67期生もいよいよ第3学年という、高校生活を締めくくる最上級生となりました。スタート早々、4月28日には一日がかりで全員が「全統マーク模試」(河合塾)にチャレンジしました。3月に行った「スタディサポート」(ベネッセ)は実力テストの意味合いが強いものでしたが、今回の模試はレベルも高く、浪人生も母集団に入ってくるので苦戦も予想されましたが、あきらめずに最後まで真剣に取り組んでいる人が多かったように思います。

さて、6月2日には絶好の天候の中、体育祭が行われました。3年の学年種目である「多摩川の合戦(騎馬戦)」では、男女ともあちらこちらで白熱した「戦い」が繰り広げられ、大いに盛り上がりました。また、男女混合・学年クラス別リレー決勝では、3年D組が優勝して、D組の総合優勝に花を添えました。おめでとうございました。また、体育祭においては、準備や当日の係分担など陰ながら頑張ってくれた人も大勢いました。皆さんお疲れ様でした。

次は、いよいよ67期生にとって最後の学校行事「ぼろにあ祭」です。受験勉強の合間を縫って、しっかり準備を進めましょう！

経営企画室からのお知らせ

経営企画室

1年生の第2回就学支援金(平成30年7月分～平成31年6月分)の申請についてお知らせします。第1回就学支援金(平成30年4月～平成30年6月分)の申請をされた際に、マイナンバー届とともに申請し認定された方は、今回書類を提出する必要はありません。

第1回の申請時に「課税証明書等」の提出で認定された場合、又は申請したが第1回で認定されなかった場合で今回の申請を希望する場合は書類の提出が必要となります。

さらに、第1回の申請時に「不申請」であったが今回「申請」に切替える場合にも書類の提出が必要となります。

詳細は今後お知らせしますので、よろしくお願ひします。